

ひょうご新観光戦略における 目標数値の考え方

R4.9.16 第3回 新観光戦略推進会議

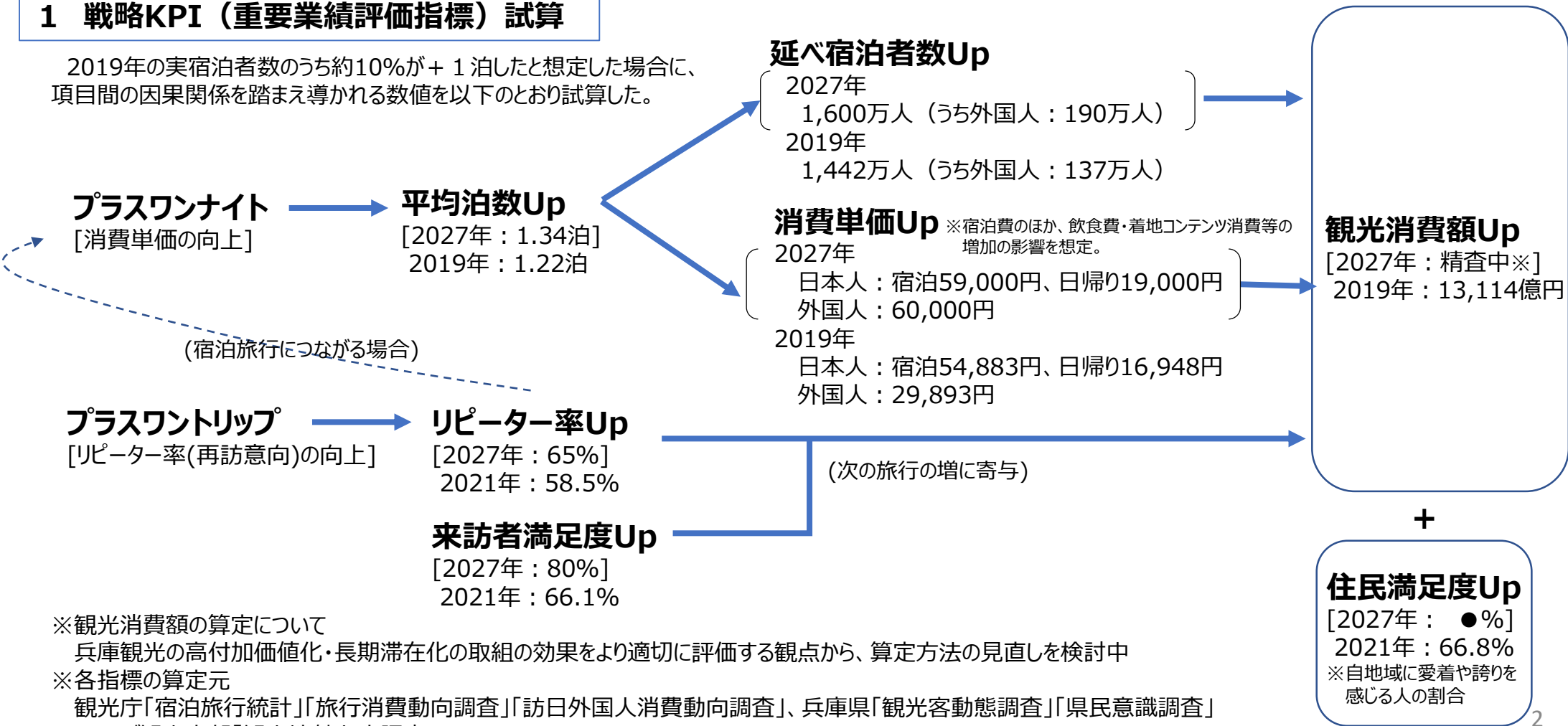
ひょうご新観光戦略における目標数値の考え方①

- 兵庫テロワール旅・ひょうごフィールドパビリオンにより磨き上げた各地の魅力を活かし、旅の高付加価値化・長期滞在を推進
 ⇒ 兵庫に宿泊された方のうち10%(※1)が「もう1泊」「もう1回の来県」を実現すれば、平均泊数が全国平均並に追いつくことに鑑み、「プラスワンナイト・プラスワントリップ」をキャッチコピーに消費額増加を目指す。とりわけインバウンドは、全国下位の実態(※2)を踏まえ単価倍増を目指す。
- 観光を通じた地域の持続性への貢献を確認する見地から、住民満足度をKPIに新たに追加

※1…詳細P4参照
 ※2…詳細P5参照

1 戦略KPI（重要業績評価指標）試算

2019年の実宿泊者数のうち約10%が+1泊したと想定した場合に、項目間の因果関係を踏まえ導かれる数値を以下のとおり試算した。



※観光消費額の算定について

兵庫観光の高付加価値化・長期滞在化の取組の効果をより適切に評価する観点から、算定方法の見直しを検討中

※各指標の算定元

観光庁「宿泊旅行統計」「旅行消費動向調査」「訪日外国人消費動向調査」、兵庫県「観光客動態調査」「県民意識調査」

ひょうご観光本部「観光地魅力度調査」

ひょうご新観光戦略における目標数値の考え方②

- 観光分野におけるSDG s の視点を加味するため、①観光で得た利益の域内経済への循環、②多様な旅行者の受入体制、③文化・環境の維持・保全への影響など、多面的にモニタリングを実施

2 モニタリング指標

括弧内の基準年度から増加（又は減少）しているかをモニタリング（以下の区分は、「日本版持続可能な観光ガイドライン」に準拠）

社会経済

（考え方）持続可能な観光を実現する上で重要となる①サービス供給体制の確保、②観光で得た利益の域内経済への循環、③多様な旅行者の受入の対応、を測る観点から設定

- ① 宿泊業への従事者数（2021年：16,339人）
- ② 域内調達率
 - ア 県産食材を7割以上利用する観光関連事業者の割合(2022年：42.9%)
 - イ 地元雇用が7割以上の観光関連事業者の割合(2022年：84.6%)
- ③ 多様な旅行者の受入環境（2022年：-施設）
 - ユニバーサルツーリズムの宣言・登録施設数(制度検討中)など



文化

（考え方）維持・保全への影響度合について「受け継がれていると思う」「守られていると思う」という県民の評価で総合的に判定するとともに、それを語り伝える人の数で活用を担保する観点から採用

- ① 地域で伝統芸能・文化が受け継がれていると思う人の割合（2022年：-%）県民意識調査で新設予定
- ② 文化資源や地域の魅力に精通したガイドの数（2021年：-人）



環境

（考え方）維持・保全への影響度合について「受け継がれていると思う」「守られていると思う」という県民の評価で総合的に判定するとともに、プラ新法による取組遵守を評価する観点から採用

- ① 地域の自然環境が守られていると思う人の割合（2021年：47.5%）
- ② プラスチック等の廃棄物削減に取り組む観光関連事業者数（2022年：45.0%）



※各指標の算定元

兵庫県「毎月勤労統計」「県民意識調査」「観光産業実態調査」、ひょうご観光本部調べ

(参考) 「実宿泊者数の約10%が+ 1泊」をもとに試算した理由

- 平均泊数が全国並に追いつくために必要であること他、供給面で見した場合の実現可能性を勘案し、「実宿泊者数の約10%が+ 1泊」を試算の対象に設定

	延べ宿泊者数 (A)	実宿泊者数 (B)	平均泊数 (A÷B)
2019	14,417千人	11,802千人	1.22泊
2027目標	15,815千人 (16,000千人)	11,802千人	1.34泊 (全国平均並)

1. 平均泊数と宿泊者数

2019年の県の平均泊数は1.22泊と、全国（1.34泊）と開きがある。

この全国の平均泊数1.34泊を兵庫県の実宿泊者数(2019)11,802千人に当てはめると、県の延べ宿泊者数は**15,815千人**となる。

一方、県の実際の延べ宿泊者数(2019)は14,417千人であり、上記15,815千人との差は**1,398千人**である。

これは、実宿泊者数(2019)11,802千人の11.8%（約10%）であり、**実宿泊者の約10%がもう1泊することで、全国平均泊数に準じた延べ宿泊者数15,815千人に近づく**ことができる。

もう1泊、長期滞在を推進することは、兵庫テロワール旅による本物志向・質重視の観光を来訪者に体験いただくコンセプトとも合致する。

	延べ宿泊者数 (A)	実宿泊者数 (B)	平均泊数 (A÷B)
全国 (2019)	595,921千人	443,960千人	1.34泊
兵庫県積算値	15,815千人	11,802千人 (2019)	

観光庁
「宿泊旅行統計調査」

延べ宿泊者数 積算値(2027) (A)	延べ宿泊者数 (2019) (B)	目標との差 (A-B)	実宿泊者数 (2019)
15,815千人	14,417千人	1,398千人	11,802千人

全国との差は
実宿泊者数の11.8%（約10%）

実宿泊者数・・・宿泊をした実人数
延べ宿泊者数・・・連泊も考慮した宿泊者の延べ人数
(例) 50人が2泊した場合、実宿泊者数は50人、延べ宿泊者数は100人
仮に、このうち5人が3泊すれば“実”は50人、“延べ”は105人となる。

2. 供給面から見た実現可能性

(1) 客室稼働率

兵庫県の客室稼働率（2019）は**56.7%**は、全国値62.7%より低くなっており、**客室稼働には伸び代**がある。

	客室稼働率 (2019)
全国	62.7%
兵庫県	56.7%

全国より低く、**客室稼働には伸び代あり**

(2) 宿泊業従業者数・宿泊施設数

兵庫県における宿泊業常用労働者数は、コロナ前後で**3,000人以上減少**（△18.2%）しており、**供給に一定の制約**があることを踏まえる必要がある。

	宿泊業常用労働者数 ※事業者規模5人以上
2019	19,983人
2021	16,339人

3,000人以上減少
⇒供給には**一定の制約あり**

兵庫県「毎月勤労統計調査」

参考	平均泊数上位都道府県(2019)	
順位	都道府県	平均泊数
1位	沖縄県	1.62泊
2位	京都府	1.55泊
3位	東京都	1.54泊

(参考) 訪日外国人旅行者の動向(旅行消費単価など)

- 旅行消費額は全国10番目に多いが、旅行消費単価で見ると 全国でも41位にとどまっている

【訪日外国人の旅行消費額、訪問者数、消費単価の順位】

出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査（2019）」

(単位：億円)

順位	訪問地	旅行消費額
1	東京都	15,388
2	大阪府	8,468
3	北海道	2,888
4	京都府	2,794
5	福岡県	1,833
6	沖縄県	1,767
7	千葉県	1,662
8	愛知県	1,644
9	神奈川県	1,260
10	兵庫県	539
11	長野県	463
12	静岡県	442
13	広島県	368
14	山梨県	325
15	大分県	270
16	奈良県	265
17	岐阜県	262
18	埼玉県	234
19	鹿児島県	197
20	石川県	195

(単位：万人)

順位	訪問地	訪問者数
1	東京都	1,410.3
2	大阪府	1,152.5
3	千葉県	1,048.5
4	京都府	830.1
5	奈良県	349.5
6	愛知県	269.4
7	福岡県	259.5
8	北海道	239.1
9	神奈川県	234.0
10	沖縄県	182.7
11	兵庫県	180.4
12	山梨県	165.5
13	静岡県	142.1
14	大分県	98.7
15	広島県	90.4
16	岐阜県	89.6
17	長野県	85.3
18	石川県	59.9
19	熊本県	57.8
20	長崎県	44.6

(単位：万円/人)

順位	訪問地	消費単価
1	北海道	12.1
2	東京都	10.9
3	沖縄県	9.7
4	埼玉県	7.4
5	大阪府	7.3
6	福岡県	7.1
7	鹿児島県	6.3
8	愛知県	6.1
9	香川県	5.6
10	茨城県	5.5
11	宮城県	5.5
12	長野県	5.4
13	神奈川県	5.4
14	群馬県	5.3
15	新潟県	5.3
16	高知県	4.9
17	山形県	4.8
18	岡山県	4.7
19	青森県	4.5
20	三重県	4.4
41	兵庫県	3.0